



馬並(うまな)めて み吉野川を 見まく欲(ほ)り 打ち越え来てぞ 滝に遊びつる

万葉集 巻7-1104 作者未詳

み吉野の川を是非見たいと思い、馬をつらねて山を越えてきた。お陰で念願の滝のほとりまで心ゆくまで遊ぶことが出来たよ。

夏休みの貴重な体験・経験を活かしてほしい！

9月1日に発表された気象庁の今年の夏(6~8月)の日本の平均気温が統計開始以来、最も高かったと発表しました。平年との差は+2.36℃となり、これまでの記録だった2024年と2023年の+1.76℃を大幅に上回ったようです。1898年の統計開始以来、127年間で最も暑い夏となったようです。

9月に入り、早9日が経ちましたが、未だに異常な暑さが続いています。2学期が始まった学校園でも、子どもたちが熱中症にならないか心配の種が尽きない状況です。そのような中でも、子どもたちは9月1日(月)の始業式には、元気な姿とともに多くの子どもたちは真っ黒に日焼けした満面の笑顔で登校、登園していたようです。

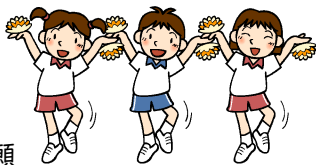
この夏休み、子どもたちは、夏休みの宿題をはじめ、部活動に取り組んだり、家族や親戚と楽しいひとときを過ごしたり、夏祭りや地域の行事に参加したり、自分の力で作品を仕上げたりと様々な体験を通してたくさん思い出ができたのではないのでしょうか。この一つ一つの体験や思い出が、健全な人間として成長するための貴重な糧になったと確信しています。

私がこの教育委員会だよりの7月号で、子どもたちの夏休みの過ごし方のアイデアを下記のように8つ示しました。

- ①料理や手伝いで“自立心”を育てる。
- ②自然体験やスポーツで心と体を解放する。
- ③読書・自由研究・デジタル教材で楽しく学ぶ。
- ④博物館や旅行等で視野を広げる。
- ⑤工作・絵・裁縫などで表現力を伸ばす。
- ⑥新しい習い事に挑戦する。
- ⑦祖父母との交流や家庭内イベントを企画する。
- ⑧地域のワークショップやキャンプに参加する。

上記の過ごし方のアイデアの一つでも二つでも意識して、普段できないことに挑戦したり、好奇心を広げたりしてもらえたのではないかと思います。

2学期の学校・園生活の中で、一人一人が夏休み中に体験した様々な力を十分に発揮して、一回りも二回りも大きく成長してほしいと願っています。特にこの2学期は、運動会・体育大会をはじめ、多くの学校行事が控えています。それらの行事を経験することで子どもたちはこれまで以上に達成感や成就感が得られると確信しています。この2学期が充実した学校生活・園生活となるよう、教育委員会としても学校園の応援団として、しっかりとサポート体制を構築し、取り組んで参りますので、これまで同様、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



教育委員会の取組

教育講演会を開催しました！

8月28日(木)の午後2時5分から、広陵中央公民館かぐや姫ホールで、松井副町長をはじめ、教育委員・社会教育委員の皆さん、町内の小中学校、幼稚園・こども園の先生方を対象にした教育講演会を開催しました。

今年の講演は、東京都三鷹市のあきやま子どもクリニックで医療教育コーディネーターをされている松野泰一先生を講師として、わざわざ東京から広陵町に来ていただきました。

演題は、「個別最適な教育環境を創り出すこれからの支援の在り方」と題して、講演をしていただきました。

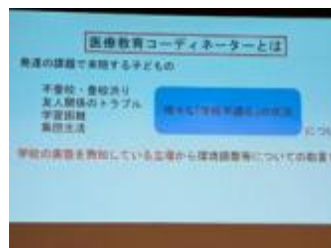
全国で不登校状態にある児童生徒数が11年連続で増加していて、令和5年度には、346,000人あまりとなり、大きな社会問題となっています。本町でも同様な傾向で、近年の教育課題の一つになっています。この課題に対して、「医療と学校をつなぐ」ことを目的に子どもたちや保護者への関わり方や医療へのつながりに取り組まれ、発達の課題に起因する学校不適応や不登校児童生徒の増加に対して、学校がどのように対応すべきか、あるいは医療との連携はどうあるべきかなど、学校の環境調整や教員の意識の醸成について、学校現場と医療の双方の立場からお話を聴かせていただきたいことから松野先生に無理を言って来ていただきました。

私の開会のあいさつの中で、松野先生との関係を少し話させていただきました。実は、松野先生とは、2007年2月から3月にかけて、3週間のつくばの中央研修で出会いました。松野先生が東京都教育委員会の人権教育の指導主事として、私が奈良県教育委員会保健体育科の指導主事として、校長・教頭研修という名目で派遣され、研修で同じ班になって様々な講義や演習で意見交流しながら仲良くさせてもらったのがきっかけでした。

その後、2年ぐらい経った頃、全国人権教育研究大会が奈良県であり、メイン会場が奈良市ということで、分科会場の若草中学校で久しぶりにお会いしました。その後は、お互い忙しくなっていて、ほとんど連絡も取れない状況でしたが、私が今の職の立場になったとき、松野先生が杉並区立天沼小学校長に赴任され、東京都のプログラミング教育の研究会の会長もされていて、研究会の案内をいただいていた。

天沼小学校でも様々な教育実践をされ、2021年9月には、当時の菅首相がオンライン授業やタブレットを活用した授業風景を視察され、松野校長先生が説明されていたそうです。そして、2023年、退職と同時に医療と学校をつなぐ医療教育コーディネーターとして、あきやま子どもクリニックに勤務されているということをお話しました。

講演の内容は、医療教育コーディネーターを始められたきっかけや学校にどのように関わっているのか、学校や家庭で



配慮すべきこと、地域と学校をつなぐコミュニティスクールの重要性、保護者へのアドバイスのポイント、クリニックに開設しているスクールナビについて、そして、学校における個別最適な教育環境とはどういうものか等、これまで松野先生が教員として、あるいは、指導主事として、また、2つの小学校長としての様々な取組と理論を基に、医療現場で子どもたち一人一人に向き合っておられる経験に裏打ちされたお話しは、参加されたすべての人たちに感銘とともに様々な示唆を与えていただきました。

医療教育コーディネーターは、今のところ全国で自分一人であり、実績を積みながら今後はこの職を増やしていきたいと語っておられました。また、医療教育コーディネーターの役割としては、発達の課題（不登校・登校しぶり、友人関係のトラブル、学習困難、集団生活）で来院する子どもの様々な学校不適応について、学校の実態を熟知している立場から、学校の環境調整等について助言をしているということでした。特にスクールナビでの学校不適応やこだわりが強いなど特別な支援を必要とする子どもたちへの対応方針としては、「否定はしない」「自己決定を重視する」「ナイスチャレンジ、ナイストライと賞賛する」「体幹の確立（幼児からの歩くことの大切さ、バランスを取る運動の経験の無さ、身体から反射が消えている）」という方法に先生方は納得されていました。

最後に、学校における個別最適な教育環境とは？という内容では、「例えば、座ると集中できないので立って授業を受ける。これは可か。」「黒板を写すのが苦手なのでタブレットで写したい。これは可か。」という問いかけに、教師が配慮すべきことは、①一律の成果を求めず、個に応じた伸びを認める。②「大人が見たい姿」を目的にしない。③できないことを指摘するのではなく、できることを伸ばす。④できたことだけでなく、やろうとしたことを評価する。⑤単純な学習規律ばかりを重視しない。そして、教師が子どもに与える褒め言葉は、「思いっきり褒めること」と話され、このことにも先生方は大いに共感しておられました。



講演会後の先生方の感想では、「穏やかな口調でのお話しに引き込まれ、あっという間の2時間でした。」や「保護者から見れば、第三者の立場である支援者、医療教育コーディネーターという存在はとても必要な存在であると強く感じた。」「ほめる中の『がんばった過程ををほめる』と『存在をほめる』を実践していきたい。」といった感想がありました。多くの先生方からは、すばらしい講演内容に感謝するとともに、明日からの実践に繋がりたいという前向きな感想が寄せられました。

講演の後、松野先生には、現場の先生方にとって示唆に富んだ貴重なお話しに感激したこと、広陵町にも医療教育コーディネーターを何とか創りたいので、そのときはご助言くださいと感謝の言葉を贈りました。

コミュニティ・スクール研修会を実施！

今年度も、地域と学校の連携・協働活動のための広陵町コミュニティ・スクール研修会を8月19日(火)に実施しました。各学校において、学校運営協議会の中心となる地域コーディネーターや学校関係者の資質向上を図るとともに、意見交流の場としての研修でした。

今回は、奈良県CSアドバイザーの高木和久先生をお招きし、

「学校運営協議会の基本的なあり方とこれからを考える～子どもの学びが高まる持続可能な運営協議会の取組を求めて～」という演題で講演していただきました。

高木先生は、平成24年より長年にわたって文部科学省のコミュニティスクール推進委員、いわゆるCSマイスターとして全国各地を訪れて、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティスクールの導入のためのアドバイスを数々してこられました。

真美一小がコミュニティスクールのモデル校として発足する際には、CS説明会にも講師として来ていただき、コミュニティスクールの導入にあたっての貴重なアドバイスを数々いただきました。

今回の講演では、新たにコミュニティスクールの定義を「保護者や地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働するしくみのある学校」と示していただきました。また、全国の数々の事例から、今回、高木先生が強調されたことは、子どもの「主体性」と「協働」の重視でした。地域の人々が子どもたちのために汗をかくことはいいことだが、子どもたちをお客さん扱いしている学校が多すぎる。あくまで、子どもの主体性を尊重し、子どもたちと共に活動することが大切だと力説されていました。



参加された方々の感想では、「大人が計画してばかりで、『子ども主役』ということ置き去りにしていたことを深く反省しました。」や「自治会、自主防災会、町づくりの中で子どもたちが主体となる活動ができていない。今後、子どもたちと一緒にできる活動を考えたい。」など、高木先生の力説されたことが書かれていました。

ジェトロの木川所長さんの講演

9月5日(金)の午後、真美ヶ丘中学校格技場において1年生を対象に、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)の奈良貿易情報センターの木川美樹子所長さんに「日本と海外の違い、日本・奈良・広陵町から世界へ」と題して講演をしていただきました。

この講演会は、1年生の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育に取り組んでおり、様々な職業について調べたり、話を聞いたりすることで、自分の将来の職業について考える一助にしたいということで企画されました。令和5年2月にも広陵中学校の2年生が木川所長からジェトロが目指す海外展開について等の話を聴き、自らがドイツやフランスなど世界各地を飛び回っておられる格好いい女性として憧れの存在となっていました。



講演のキーワードは、「今日覚えてほしいこと」「世界は広くて狭い」「奈良は凄い、広陵町も凄い」「異文化に触れることは楽しい」でした。今回も「ジェトロが目指す海外展開について」「様々な国での日本、奈良県の地場産物(生駒の茶せん、三輪そうめん、奈良墨と筆、広陵つつ下)の紹介と売りこみについて」「英語やドイツ語などを勉強して身に付けたこと」などを話され、子どもたちは、格好いい木川さんのように世界に羽ばたく素敵なお大人になってみたいという想いを抱いたようでした。